

「連携教育の実践」 —基礎ゼミⅡの実践—

高橋一栄

キーワード：基礎ゼミⅡ、専門職間連携

The practice of the inter-professional-education . - Basic seminar II -

Kazuei Takahashi, PhD.

keyword : Basic seminar, Interprofessional Collaboration

要旨

本学では、医療福祉関連専門職を目指し、その倫理観と使命感を養い、QOL サポーターとして必要とされる教養的な知識と専門的な知識技能を修得するため5つの科目群が配置されている。その中でも、1年後期に設定されている基礎ゼミⅡは、専門的な知識や技能を習得していない1年次の活動ではあるが、専門職間連携の初歩的段階として重要な位置を占める。

基礎ゼミⅡでは、1年前期基礎ゼミⅠで身に付けた導入教育の成果を踏まえ、7学科（創設時は5学科）の学生が共通な課題テーマを設定し、その調査や問題解決などの過程を通して基本的な学習技能や対人交流技術を発展させ、将来他職種との協力やチームワークを実践する際に必要な基本的技術や態度を修得することを目的としている。

1. はじめに

本学では大学生活への円滑な導入を主たる目的として、基礎教養科目群に全員必修の基礎ゼミⅠ（1年前期）を組織している。この目的や具体的な内容方法は、基礎ゼミⅠの説明の通りである。基礎ゼミⅡは、その発展として位置づけられており、1年後期に教員一人に7学科（場合によっては6学科）の学生が集い、専攻や将来の職種、目的の異なる他学科の学生と知り合い、各学科に

共通するような課題、テーマを設定し、その調査や問題解決などの過程を通して、基本的な学習能力や対人関係能力を育て、将来他職種との協力やチームワークを実践する際に必要な基本的技術・態度を育成することを目的としている。

各学科における専門的な知識や技能を修得していない1年次後期において、まず他学科の学生との人間関係づくりを中心に行うこの活動は大きな意味を持っている。その過程において協働作業を通して作成されたポスターの内容については、いっせいに掲示され、全学学生、全学教師の閲覧や学科口頭発表会全体発表会等を通して評価される。

これらの一連の活動は、その後専門的な知識や技能を修得した4年次において、「総合ゼミ」へと発展的に継続され、さらに専門職間連携を確かなものにしていく。本学におけるゼミ形式による全学連携教育の体系を示すと図1のようになる。

2. 基礎ゼミⅡ具体的内容とその評価

(1) 担当教員と学生の配置

年度当初、各学科における基礎ゼミ担当教員が、学科の申請により決定される。基本的には全教員が基礎ゼミに関わることが確認されている。その学科担当教員の人数により、7学科の学生が割り当てら

高橋一栄 新潟医療福祉大学 医療技術学部 健康スポーツ学科

[連絡先] 〒951-3198 新潟市島見町1398番地
TEL・FAX : 025-257-4435
E-mail : kazue-t@nuhw.ac.jp

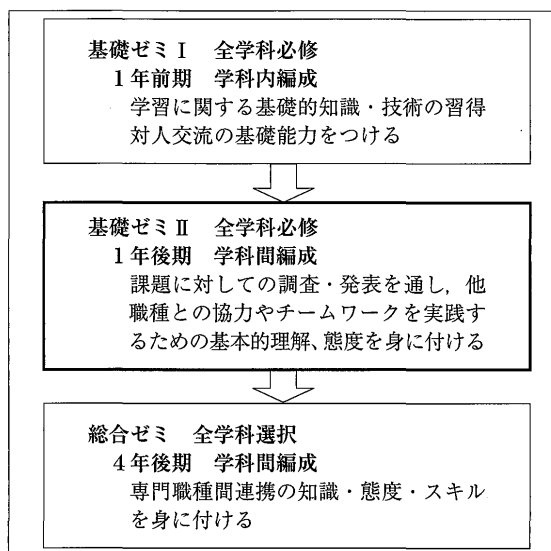


図1 本学におけるゼミ形式の全学連携教育

れ、基礎ゼミⅡのメンバーが決定する。

一つのゼミの人数は、原則10名を越えないように確認され、ほぼ1教員に6から8名の学生が配置される。学科によって定員が異なることから、定員の多い理学療法学科（定員80名）健康スポーツ学科（定員60名）看護学科（定員80名）社会福祉学科（定員100名）は複数人数が一つのゼミに配置されることになる。

各ゼミへの割り当ては、学科において行われる。その配慮事項として、ある特定の学科や男女の比率が著しく偏らないことなどがあげられる。

(2) 学習目標

行動目標（SBO）は下記のようになる。

- ①大学生として学習に必要な以下の能力を、課題設定、調査、報告書作成などの活動を通して身に付ける。

- ア. 他職種の話を聞いて正しく理解する
- イ. 専門的な文書を読んで内容を性格に読み取る
- ウ. 専門的な内容の要点をまとめる
(中略)
- カ. グループや自分の意見を筋道を立ててまとめる
- キ. 他職種の意見を総合して課題や報告書を完成する
- ク. まとめた内容を、相手にわかるように報告の方法を工夫して伝える
- ケ. 他のグループの報告を聞き、その内容を評価したり問題点を指摘したりする
- ②ゼミ活動を通して、教員や学生と良好な人間関係を築き、以下の対人交流の能力を高める
- ア. 自分の意見と相手の意見の共通点・相違点に気づき、その前提や背景を検討することができる
- イ. 課題の設定からまとめまでの過程と役割分担を互いに協力しながら設定し、実行することができる

(3) 授業計画

各学科における授業計画及び各時間の学習課題は、表1のようになる。なお、学科の特性によりアイスブレイキングなど初対面の学生間の交流方法は異なる場合がある。（健康スポーツ学科の例後述）

12回目において、学科での発表会を行い1グループが選出される。社会福祉学科は定員の関係から2グループ、さらに学長先生及び教育開発委員担当の選出で2グループが別途選出され、13回の全体発表会に臨む。全体発表会で優秀と認められたグループはその後、学長との昼食会が予定されている。

(4) テーマの決定方法とその一覧

これまでの主なテーマは表2のようになる。左は開学当初の平成13年度のものであり、右は平成16

表1 授業計画及び学習課題

次	内容	学習課題	集団
1	学長・学部長講話	基礎ゼミの意義を理解し、障害と福祉の意味を理解し、全体的な活動の構想を理解する	全学科
2	ゼミ単位交流会	アイス・ブレイキング等活動により互いを理解する	ゼミ
3	テーマ決定	課題・テーマの協議、目的、方法、内容の決定	ゼミ
4	課題追求活動	課題解決への取り組み（調査、レポート作成など）	ゼミ
5	同上	同上	ゼミ
6	同上	同上	ゼミ
7	同上	同上	ゼミ
8	同上	同上	ゼミ
9	同上	同上	ゼミ
10	報告書作成	パワーポイントによる報告書の作成	ゼミ
11	同上	ポスターの作成、展示	ゼミ
12	学科発表会	ゼミ担当教員の所属する学科での発表会	学科
13	全学発表会	全員の参加する発表会	全学
14	まとめの活動	報告書の作成、授業評価、まとめ	ゼミ

表2 主なテーマの例

～平成13年度 基礎ゼミⅡ テーマ一覧～		～平成16年度 基礎ゼミⅡ テーマ一覧～		
ゼミNO.	～テーマ～	フォルダー	ゼミNO.	題名
PT1	骨粗鬆症について			はじめに…学長 高橋榮明
PT2	障害者施設に対する意識		P-1	健康になる5秒前
PT3	新潟医療福祉大学学生の現在 (いま)	心理・身体	P-2	味覚
PT4	慢性関節リウマチにおける日常生活での問題と改善点		P-3	もぐもぐのパワー
PT5	車椅子利用者に対するバリアフリー ～新潟駅の現状～		L-1	石川と新潟の文化の違い
PT6	生体リズム ～睡眠障害の対処法について～	生活	L-2	韓国を知りたい
OT1	「明るく健康な家庭」		L-3	新潟県の県民性
OT2	テーマ1 医療福祉職の適正 テーマ2 医療福祉の現場		L-4	方言に関する意識調査—新潟の方言—
OT3	シルバービジネスについて		L-5	障害者・高齢者にとってのバリアフリー～理想の店～
OT4	認知疾患について		L-6	知られざる郷土料理の歴史
OT5	まると・フィリピン		H-1	イメージトレーニング
OT6	「障害者旅行マップ作り」	スポーツ・健康	H-2	アスリート成田真由美の挑戦～アテネへの道～
OT7	脳性麻痺児の遊びとおもちゃ ～0歳から6歳～		H-3	アロマセラピー
ST1	〈国境なき医師団の活動から学ぶこと〉		H-4	視力維持の方法
ST2	本学学生における欠食の実態		H-5	冷え性対策
ST3	「障害者との共生」を考える		H-6	ドーピングの真相を追い!
ST4	「障害に対する偏見について」		H-7	視力回復方法の体験的検証
ST5	食★ショック! ～遺伝子組み換え食品の安全性～		S-1	本当にあっている?血液型の話
HN1	「わたしたちの考えるケア・プラン」		S-2	貴方に合う人探しちゃいました
HN2	『炭疽菌について』		S-3	その髪 輝いている?
HN3	プリオン病 ～狂牛病～	学生	S-4	当ゼミ学生の身体組成及び食事の現状と課題
HN4	Bacillus Anthracis 炭疽菌の生物化学兵器への応用		S-5	となりのトトロの〇〇学
HN5	諸外国におけるスタミナ食文化についての研究		S-6	THE 勉強法 ～より効率的な学習方法～
HN6	『児童虐待』について		S-7	現代の若者の結婚観
HN7	Let's go yah ゴーヤを使った料理のアレンジ		S-8	記憶力向上計画
HN8	音楽療法について ～ストレス緩和と音楽との関係～		E-1	ウーロン茶の効能
SW1	患者・障害者とその家族の体験記と専門職の課題		E-2	食品添加物
SW2	アメリカ同時テロ、公的介護保険制度、狂牛病、代理出産について		E-3	食生活改善クラブ
SW3	大学1年生のエイズに関する知識と意識について		E-4	健康の中心で、トクホを叫ぶ
SW4	代理出産の問題点と利点		E-5	ビール・Beer・Bier
SW5	人と動物 —医療福祉分野における動物の役割—	食	E-6	人類はついに禁断の食品を知ってしまった～食品と腐敗～
SW6	「人間について様々な角度から考える」		E-7	ファーストフードとスローフードについて
SW7	「アニマルセラピー」～動物で心と体がいやせるか～		E-8	いいのか!? ガムは飲んで…
SW8	もう一度自分の学科への理解を深める		E-9	カップ麺の東西比較
SW9	児童虐待に関する調査報告		E-10	豆乳パワー あの噂って本当!? ダイエット・脱毛の実験、検証
SW10	私たちが関心を持つ現代社会の課題		E-11	大豆で健康!～豆乳と納豆のパワー～
SW11	【基礎ゼミⅡで習ったこと】		E-12	食べ合わせのパワー
SW12	「障害をもつ人と、どのようにして接していたらよいか?」	障害・その他	I-1	リハビリメイクがもたらす効果
SW13	在宅介護における医療福祉職に関する研究 ～高齢者社会に対応していく		I-2	車イスでも行けちゃう店…GUSTO
			I-3	BEAUTY COLOSSEUM～写真写りを良くする方法～
			I-4	妊婦の疑似体験

年度のテーマである。基本的にはテーマの決定は、担当教師とゼミ生との協議で決定することとなっている。開学当初、テーマ設定について、医療、福祉、健康等の領域であれば自由なテーマを可とした。

1年次のテーマには問題のあるテーマは見受けられなかったが、次第に医療や福祉、健康等の分野を逸脱したテーマも出てくるようになり、問題も出てきた。そのようなことから前年度のテーマを事前に示したり、前年度のCDを参考にするなど、テーマ決定方法はある程度制約して今日に至っている。さらに、平成18年度では、1回目の全体会で、学長から2つのテーマの提示が行われた。テーマ決定の過程については、教師の指導のあり方も含めて、今後検討が必要である。

新たな試みとして、健康スポーツ学科の例をあげる。平成17年度に新設された健康スポーツ学科では、最初4時間かけて、4つのスポーツジャンル（ニュースポーツ、障害者スポーツ、水に関するスポーツ、レジスタンススポーツ）を全員に経験させた。その後、個人が希望するスポーツジャンルをもとにグループを分け、担当教師とともにテーマを設定することとした。このような方法をとることにより、テーマが焦点化され、逸脱したテーマは影を潜めた。学科の特長を生かしたテーマの設定等が求められる。

(5) ポスター及び口頭発表の評価

このことについては、①テーマが妥当か、②研究内容、方法等は確実か、③結果、考察等の内容は妥当か、④独創性はあるか、⑤ポスターのアイデアはどうか、等について各学科で評価カードを作成し、評価を行っている。

なお、ポスターについては、学長及び教育開発委員会担当者が全ポスターを上記の項目プラス個人の観点でチェックしている。また1学年全員は、ポスターチェックする時間を設定し、質問や意見を各ポスターの意見ボックスに入れるようにしている。

(6) 基礎ゼミⅡの学生及び教員による評価方法

学生用アンケートは基礎ゼミⅡ授業最終時にゼミごとに配布され、記述後回収される。内容を資料1に示す。回答用紙は無記名だがデータ処理のために学科名のみを記入する。教員用アンケートは、授業終了後10日から2週間で回収される。その内容を資料2に示す。回答用紙は無記名であるが、データ整理のため学科名と基礎ゼミ担当経験年数を記入する。結果の処理については、両アンケートとも選択肢に対する反応を平成16年度と17年度についてパーセントで示した。自由記述欄の回答について今回は割愛した。以下この学生教員アンケートをもと

に、結果と考察を述べる。

3. 結果と考察

学生用アンケートの結果（全学科の平均値）を表3に、教員アンケートの結果を表4に示す。以下表3表4をもとに結果の分析及び考察を加える。

(1) 基礎ゼミⅡの行動目標（SBO）の一つである「他職種との友達づくり、他職種との交流」については、学生・教員ともに「できた」が80%を越えている。（資料参照）基礎ゼミⅠでは同学科の学生との交流が中心であり比較的容易にできる。しかし、他学科他職種との交流は、導入部分に少し難しさがああり、人間関係づくりに配慮が必要である。学内FD委員会においてもアイスブレイキングについて研修を行い、他学科学生との交流を円滑に行えるよう意図している。前述の健康スポーツ学科は、学科の特性を生かし、最初の3から4時間については、仮のグループを編成して（4グループ：各グループ18名前後）ニュースポーツや水に関するスポーツ、障害者スポーツ、レジスタンススポーツなど種類の違うスポーツを全員に経験させ、その後希望者によるグループ編成を行っている。このように身体を動かしながら活動することにより、初対面のもの同士が自然に打ち解けあうことができる。今後は学科独自の工夫が求められる。

(2) 学生による「自分の学科の特色の理解」「他学科の特色の理解」、教員による「各学科の特色や専門職種についての理解」については、学生は「少してきた」が高率を示している。教員は「できなかった」が最も多く、「少してきた」の順になっている。初年時であり、専門教育を受けていないこの時期におけるSBOとしては、まず「他学科の学生と知り合う」(1)に最大の目標があると考えられる。1年次における他職種他学科理解についての目標を再度検討することが求められよう。

(3) 学生による「話し合いで他学科の学生の意見を理解できたか」「話し合いで自分の意見を述べることができたか」、教員による「他学科の意見を聞き自らの意見を述べることができたか」については、「聞くこと」については学生は「十分できた」が高率を示している。「自分の意見を述べる」については、「少してきた」「かなりできた」が高くなっている。教師はこの項目について「できた」「多少できた」と評価しており、初年度における他学科他職種との交流では、まず、「相手の意見を聞くこと」「相手の言うことを理解すること」が大切なポイントと考えられる。

(4) 「テーマの決定」「担当教師の指導や配慮」については、学生教員とも「学生の話し合い」を中心に、

表3 学生へのアンケート (n = 197)

		16年度	17年度
A 他学科の友だちができたか	できた	87.0	85.5
	どちらともいえない	11.9	10.9
	いいえ	1.1	2.8
B 専攻する自分の学科の特色を知ることができたか	十分できた	8.0	15.3
	かなりできた	12.0	23.8
	少しできた	60.0	37.8
	できなかった	20.0	20.5
C 授業を通じて他学科の特色を知ることができたか	十分できた	5.1	15.5
	かなりできた	16.6	29.0
	少しできた	63.4	43.8
	できなかった	14.9	10.4
D 話し合いで他の学生の意見を聞き理解できたか	十分できた	29.9	47.9
	かなりできた	52.9	37.8
	少しできた	16.7	11.4
	できなかった	0.6	0.5
E 話し合いの場で自分の意見を述べることができたか	十分できた	18.4	28.0
	かなりできた	26.4	35.0
	少しできた	51.7	31.1
	できなかった	3.4	5.2
F 研究テーマの決定について、学生が中心か、教員の指示・提案か	学生の話し合い	62.1	48.2
	どちらかといえば学生の話し合い	26.0	35.5
	どちらかといえば教師の指示・提案	9.6	10.4
	教師の指示・提案	2.3	4.9
G 担当教員の指導や配慮は適切か	十分適切	48.6	44.6
	ほぼ適切	44.1	44.6
	やや不適切	7.3	7.0
	不適切	0	2.8
H 混成少人数グループの是非	今回の形がよい	85.1	71.8
	学科混成で人数やや多い方がよい	6.9	12.4
	同一学科で人数がやや多い方がよい	0	5.2
	同一学科でこの人数がよい	7.5	9.8
I 基礎ゼミ II の満足度はどうか	十分満足	84.1	76.2
	どちらともいえない	14.8	17.9
	不満足	1.1	4.1

表4 教員へのアンケート (n = 31)

		16年度	17年度
A 授業を通して学科間の交流ができたか	できた	82.8	68.6
	どちらとも言えない	6.9	11.8
	できなかった	3.4	0
	学生が判断すること	6.9	17.6
B 授業を通して各学科の特色や専門職種について学生は理解することができたか	できた	13.3	2.0
	多少できた	33.3	41.2
	できなかった	40.0	43.1
	学生が判断すること	13.3	7.8
C 学生は他者の意見を聞き、自らの意見を述べる事ができたか	できた	48.3	37.3
	多少できた	41.4	51.0
	できなかった	6.9	7.8
	学生が判断すること	3.4	2.0
D 学生指導に関する教師の基本的態度は次のどれにあたるか	すべて学生にまかせた	10.0	3.9
	部分的に示唆した	63.3	31.4
	求めに応じて協力した	26.7	58.8
	指導を徹底してリードした	0	3.9
E 研究テーマの決定はどのようにしましたか	学生の話し合い	83.9	66.7
	どちらかといえば学生の話し合い	12.9	27.5
	どちらかといえば教師の提案・指示	3.2	2.0
	教師の提案・指示	0	2.0
F 調査・資料収集に教師はどのように関与したか	すべて学生にまかせた	20.7	17.6
	部分的に示唆した	72.4	47.1
	求めに応じて協力した	6.9	31.4
	指導を徹底してリードした	0	2.0
G ポスター作成にあたってどの程度関与したか	すべて学生にまかせた	10.3	19.6
	部分的に示唆した	65.5	58.8
	全文を校閲した	24.1	17.6
	指導を徹底してリードした	0	2.0
H 口頭発表に対してどの程度関与したか	すべて学生にまかせた	27.6	46.0
	部分的に示唆した	55.2	38.0
	原稿を校閲した	17.2	10.0
	ほとんど教員が指示した	0	0
I ポスター作成で最も困難を感じたプロセスはどれか (複数選択可)	テーマ設定	45.2	47.1
	調査	12.9	23.5
	データ分析	16.1	25.5
	まとめ文書作成	38.7	43.1
	図表の作成	6.5	17.6
	ポスター作成	9.7	9.8
J ポスター展示で問題があるとすると何か (複数選択可)	シラバスに明記されていない	9.7	21.6
	日数が不足	22.6	17.6
	担当の指示が不明確	16.1	2.0
	担当の指示が遅い	6.5	3.9
	経費が不足	3.2	9.8
	展示場所問題あり	22.6	25.5
	ポスター作成の意図が不明確	3.2	3.9
K 全体発表会での口頭発表について (複数選択可)	必要なかった	9.1	3.9
	口頭発表数が少なすぎる	9.1	19.6
	適切だった	77.3	68.6
	その他	4.5	0

必要に応じて教師が関わるという項目が高率を示していた。基礎ゼミⅡにおける教師の学生への対応は、学生の主体性を育てる観点でさらにより望ましい関わり方を検討する必要がある。

- (5) 「調査・資料作成」「ポタスー、口頭発表」等への関わり方については、問題点困難点等についてさらに改善が必要である。
- (6) 学生による「基礎ゼミⅡの満足度」について、「十分満足」が高率を示すことから、さらに精度を高め基礎ゼミⅡの活動を推進していきたい。

4. 今後の課題

基礎ゼミⅡの6年間の実践を通して、さらに次のような課題が考えられる。

- (1) 基礎ゼミⅠ及び4年総合ゼミとの関連をどう図るか。すなわち、基礎ゼミⅠで何を学習し、基礎ゼミⅡではさらに、総合ゼミでは何を学ぶのか、学習内容の明確化が求められる。
- (2) 大学4年間における連携教育の継続性をどう図るか。1年前期後期では基礎ゼミⅠⅡを組織し、意図する力を付けようとしている。総合ゼミの実施は4年生である。2年生3年生における連携教育をどのように行ったらよいかその継続性が求められる。
- (3) テーマの設定等については、学生にゆだねる部分が多い。しかし、精度の高い活動を意図すると、もう少しテーマを限定し、医療、福祉、保健、健康と密接に関連するものにする必要がある。テーマ設定や課題追及等に教員がどのようにかかわることが望ましいのか、今後さらに検討が必要である。

資料1 アンケート用紙 (学生用)

授業アンケート
(基礎ゼミⅡ学生用)

- ①このアンケートは、この授業をよりよくするために行われるものです。皆さんからの真剣な評価が教員に知らされるので、無責任な評価や悪口は受け入れられません。
- ②この集計結果は学期末の成績が決定し、提出されるまで担当教師には手渡されませんので、皆さんの成績に影響を与えることはありません。
- ③責任のある回答を保証するため、学籍番号は回答用紙(マークシート)に必ず記入して下さい。また、番号欄には必ず先生より指示のあった7桁の番号を記入してマークしてください。

注意:アンケートの5～1とマークシートの5～1はちょうど逆の並びなので、記入するときには注意する。

1. この授業に関する次の1～9の項目は、別紙説明用紙に示す5～1のどれに当てはまりますか。回答用紙(マークシート)の欄を塗りつぶして下さい。

- 1 授業を通じて他学科の友達ができましたか。
はい…3, どちらともいえない…2, いいえ…1
- 2 授業を通じて自分の選考する学科の特色を知ることができましたか。
十分できた…5, かなりできた…4, 少しできた…3, できなかった…2
- 3 授業を通じて他学科の特色を知ることができましたか。
十分できた…5, かなりできた…4, 少しできた…3, できなかった…2
- 4 話し合いの場で他の学生の意見を聞き、理解しようとしてしましたか。
十分できた…5, かなりできた…4, 少しできた…3, いいえ…2
- 5 話し合いの場で自分意見を述べることができましたか。
十分できた…5, かなりできた…4, 少しできた…3, できなかった…2
- 6 研究テーマをどのように決めましたか。
教員の提案・指示…5, どちらかと言えば教員の提案・指示…4,
どちらかと言えば学生の話合い…3, 学生の話合い…2
- 7 担当教員の指導や配慮は適切でしたか。
十分適切…5, ほぼ適切…4, やや不適切…3, 不適切…2
- 8 6学科学生の混成, 少人数グループという形態はどう思いますか。
今回の形がよい…5, 6学科混成で人数がやや多い方がよい…4,
同一学科で人数がやや多い方がよい…3, 同一学科でこの人数がよい…2
- 9 総合的に判断すると基礎ゼミⅡを受講して良かったと思いますか。
はい…3, どちらともいえない…2, いいえ…1

資料2 アンケート用紙 (教員用)

授業アンケート
(基礎ゼミⅡ・教員用)

記入方法:回答番号を基にして、マークシートを塗りつぶしてください。
(一部、《複数回答可》の項目がありますので、ご注意ください。)

- A 授業を通して6学科の学生間で交流できたと思いますか。〈回答番号(1)〉
はい…1, どちらとも言えない…2, いいえ…3, 学生が判断することである…4
- B 授業を通して各学科の特色や専門職種について、学生は理解することができたと思いますか。
〈回答番号(2)〉
はい…1, 多少できた…2, いいえ…3, 学生が判断することである…4
- C 学生は他者の意見を傾聴し、かつ、自らの意見を述べることができたと思いますか。〈回答番号(3)〉
はい…1, 多少できた…2, いいえ…3, 学生が判断することである…4
- D 学生指導に関する先生の基本的態度としては、以下のどれに該当しますか。〈回答番号(4)〉
指導を徹底してリードした…1, 求めに応じて随時指導…2,
部分的な示唆のみ…3, すべて学生に任せた…4
- E 研究テーマはどのように決定しますか。〈回答番号(5)〉
教員の提案・指示…1, どちらかといえば教員の提案・指示…2,
どちらかといえば学生の話合い…3, 学生の話合い…4
- F 調査・資料収集に先生はどのように関与しましたか。〈回答番号(6)〉
すべて指示した…1, 求めがあったときのみ協力した…2,
部分的な示唆のみ与えた…3, すべて学生に任せた…4
- G ポスター作成に当たって、どの程度関与しましたか。〈回答番号(7)〉
ほとんど教員が指示して書かせた…1, 全文を読んで校閲した…2,
部分的な示唆のみ与えた…3, すべて学生に任せた…4
- H 口頭発表に対して、どの程度関与しましたか。〈回答番号(8)〉
ほとんど教員が指示した…1, 口演原稿を校閲した…2,
部分的な示唆のみ与えた…3, すべて学生に任せた…4
- I 展示ポスター作成でもっとも困難を感じたプロセスはどれですか。《複数回答可》
〈回答番号(9)~(14), 当てはまる回答番号の「1」を塗りつぶす。〉
(9)テーマ設定, (10)調査, (11)データの分析, (12)まとめの文書作成, (13)図表の作成, (14)ポスター事態の作成
- J すべてのゼミによるポスター作成・展示という方法について 〈回答番号(15)〉
適切…1, 不適切…2
- K ポスター展示で問題があった部分はどれですか。《複数回答可》
〈回答番号(16)~(22), 当てはまる回答番号の「1」を塗りつぶす。〉
(16)ポスター作成の意図が不明確, (17)展示場所に問題あり, (18)経費が不足,
(19)教育開発委員の指示が遅い, (20)教育開発委員会の指示が不明確, (21)日数が不足,
(22)シラバスに明記されていなかった
- L 口演発表について 〈回答番号(23)〉
適切だった…1, 6題のみの口演は少なかった…2, 必要なかった…3
- M 今回の発表方法を来年度も実施することに対してどのように考えますか。〈回答番号(24)〉
ポスター展示, 口演は行わず報告書のみ作成…1, ポスター展示のみ行う…2,
口演のみ行う…3, 今年度と同様…4